「音楽で紡ぐ、新たな絆」

交野市 × エチオピア

10/12（土）、エチオピアのアート集団「Fendika（ファンディカ）」が交野市を訪れ、国際交流コンサートが開催されました。コンサートは、市内で活動する郷土芸能「サエキ囃子（ばやし）」の主催で、国が推進する万博国際交流プログラムの一環として実施。演奏や踊りを通して相互の文化や歴史、言語への理解を深める機会として催されました。

世界に誇るエチオピア文化と交野市の郷土芸能の共演

魂をふるわす交野市の郷土芸能

サエキ囃子

コロナ禍の中で生まれた交野市の新しい郷土芸能。交野市を拠点に活動する和太鼓奏者の佐伯篤宣（さえきあつのぶ）さんが中心となり、子どもから大人まで、桶太鼓を担いで踊り歩くお囃子です。

伝統楽器が奏でる弾けるような歌声とリズム

Fendika（ファンディカ）

踊り手Melaku（メラク）さんが率いるエチオピアのアート集団。エチオピアの伝統的吟遊詩人アズマリや新たな音楽が協奏し、世界でも高く評価されています。

共演のきっかけ
～アフリカの芸能を子どもたちに届けたい～

サエキ囃子の結成当初から交流しているチャンゴ奏者のチェ・ジェチョルさんを通じて、大阪・関西万博のテーマ事業館プロデューサーの中島（なかじま）さち子さんを紹介していただいたことが全ての始まり。中島さんは、日本の郷土芸能と世界の芸能をつなぐことを模索されており、今年1月、エチオピアのFendikaとの国際交流事業の打診をいただきました。自分たちに何ができるのか全く想像できなかったですが、遠い異国のアフリカ芸能と交野市の子どもたちが直接交流できるチャンスがある。これは子どもたち、そして交野市にとっても将来大きな財産になるのではないかと思い、プロジェクトの実施を決めました。

佐伯篤宣